

## 《第3回 ICDアワード受賞者》

## 英語で研究発表した得難い経験



日本大学歯学部

## 関本 和 祥

この度、第3回ICDアワードの受賞の栄誉に与りましたこと身に余る思いです。私は3月に日本大学を卒業し4月より名古屋大学附属病院の方で臨床研修医として勤務しております。今回ICDアワードに推薦いただきましたきっかけは4年生から5年生にかけてstudent clinician research program (SCRP)に参加したことでした。このプログラムでは日本大学歯学部解剖学第I講座の藤原恭子先生のご指導の下「分子内エチレングリコールの数が9bwの抗腫瘍効果に与える影響」というテーマ研究を行い、その成果を英語で発表しました。この研究では抗腫瘍効果を持つ化合物9bwの分子内エチレングリコール鎖（以下EG）の長さを変えることで抗腫瘍作用に差異が認められるのか、また、その差異はどのような理由から生じたかを解明することを目的としました。結果としてEGが長いほど舌癌細胞株HSC4に対して強い殺細胞効果を示しましたが、一方、単離したミトコンドリアを用いて呼吸鎖複合体Iの抑制効果を調べた実験では中間の長さのものが最も強い抑制効果を示しました。このことからEGの個数は呼吸鎖複合体Iの阻害効果や細胞内・ミトコンドリア内への取り込み活性等、複数の点に影響を与えている可能性が示唆されました。

以上の研究を通じて、実験技術を習得したり、データをまとめて英語で発表するという貴重な経験ができました。今後はがん研究の分野に進もうと考えておりますが、SCRPでの経験を活かし、海外の研究者との情報交換や共同研究を行っていったらと思います。その上で、ICDアワードを賜りましたことは大変励みになります。

この度受賞出来たのは藤原先生の明快かつ細やかなご指導、ならびに講座の先生方や事務の方々のご協力のお陰です。皆様方に謝意を表しましてこの文を締めさせていただきたいと思っております。誠に有難う御座いました。



表彰式にて